
2.地域福祉に関する 市民ワークショップ報告書

(1) ワークショップ実施概要

目 的

本市では、地域を取り巻く現状や課題、解決に向けての取組などを話し合い、住民主体の地域福祉を進めるため、「地域福祉に関する市民ワークショップ」を開催し、またその話し合いの結果を第4次日高市地域福祉計画の策定にも役立てています。

○募集と応募状況

無作為抽出した18歳以上の2,000名に案内を送付し、20歳代から70歳代の21名の応募がありました。

【第1回】

- 日 時 : 令和4年9月14日(水)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 16名
- 課題と進行 : (現状の理解と生活の中で感じている困りごと)
ワークショップの目的と手順の説明、現状などの説明後、各参加者が感じている「心配ごと」や「困りごと」を共有する

【第2回】

- 日 時 : 令和4年10月20日(木)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 12名
- 課題と進行 : (世代間交流の促進に必要なこと)
幅広い世代との交流や地域活動への参加を促進するための取組をまとめる

【第3回】

- 日 時 : 令和4年11月17日(木)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 10名(市民8名、事務局2名)
- 課題と進行 : (良いところを整理)
地域の良いところをまとめ、新しく引っ越してきた人に紹介し、地域活動へのつなぎ方について考える

【第4回】

- 日 時 : 令和4年12月15日(木)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 11名(市民7名、事務局4名)
- 課題と進行 : (地域で支え合いを進めるために必要なこと)
地域住民同士での支え合いを進めるために必要な取組をまとめる

【第5回】

- 日 時 : 令和5年1月19日(木)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 11名(市民10名、事務局1名)
- 課題と進行 : (目指す地域福祉の姿)
前回までにまとめた課題やその解決策などから、様々な対象者に合わせた地域での取組を考える

(2) ワークショップ実施結果

第1回-意見交換の要約

討論テーマ

普段の生活の中で感じている、「心配ごと」や「困っていること」

【グループ発表から】

Aグループ

「交通インフラ」、「子育て」、「ごみ」等に関する発表が行われ、中でも「交通インフラ」では、小中学校の近くに信号機のない横断歩道があり、交通事故が起きる可能性が高いとの意見がありました。

Bグループ

「高齢者」、「近所・地域」、「子ども」等に関する発表が行われ、「近所・地域」では、地域で助け合う「互助」の必要性に触れ、近所や周りの人たちとの関係を深めていくためにはきっかけづくりが必要であり、地域の祭、花火大会、お茶会などを企画することで、関係を深めることができるのではないかとまとめていました。

Cグループ

「高齢者」、「健康」、「人とのつながり」、「交通」等に関する発表が行われ、「人とのつながり」では、話しをする相手、場所がないことを挙げて、話しができるサークルを地域内に複数個所設けるとともに、サークル活動を通して、人間関係や地域とのつながりを深めていくことで、孤立感を減らすことができるとまとめていました。

Dグループ

「ボランティア」、「交通不便」、「マナー」等に関する発表が行われ、「ボランティア」では、ボランティアが集まりにくい現状を紹介するとともに、参加人数が少なく、協力者が増えていないとまとめていました。



【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「交通インフラ」

- ◎小中学校近くに信号機のない横断歩道があるため、事故が起きる可能性が高くなっている。信号機をつけてもらいたい。
- ◎自転車を使う小学生や中学生、高齢者が多い中、自転車専用道路が少ない。
- ◎カーブミラーがない、道に大きな穴があいているなど、整備が十分でない。
- ◎高齢者が増え、免許証の返納、バスの交通手段が減っている。交通手段がないことで、高齢者が外に出られない悪循環となってしまうている。
- ◎日和田山はロッククライミングの聖地、高麗神社は聖地巡礼の場所となっているため、渋滞が起きてしまっている。巡回型バス、巾着田へのシャトルバスの増便、駐車場の増設など地域を整備すれば、日高市はもっともっと人を呼べる場所になる。人を呼べる場所になれば、もっと人が住みたい場所になる。

「高齢者」

- ◎元気な高齢者が多い。年齢で区切る「高齢者」はもうやめてはどうか。元気な高齢者は働いてもらいたい。元気な高齢者が働ける環境を市として整備してもらいたい。高齢者に限らず、女性や障がい者、一度仕事から離れても、すぐに職に戻れるような市であればいい。人間関係は職場でも作れる。そこでも助け合いはできる。
- ◎コロナ禍により、外に出る機会が少なくなり、1人暮らしの高齢者が家の中にもっている。家にこもることで、外に出て足を動かすことや人と会って話す機会が減り、能力が低下する。動ける高齢者が減ってしまうと、高齢者人口が増えた時に、市を動かす力が減ることが考えられる。

「近所・地域」

- ◎「互助」地域で助け合う、ということが一番の課題。近所で助け合いができれば、介護も助け合い、高齢者も助け合い、子どもも障がい児も助け合い、地域で育てることができるのではないかな。
- ◎近所や周りの人たちとの関係を深めるためのきっかけとして、地域の祭、花火大会、お茶会や飲み会を企画することで、近所との関係を深めることができるのではないかな。
- ◎話しをする相手、場所がない。コロナ禍で集まれないこともあるが、いろいろな人が来て、話しができる場所が地域内に1～2つではなく、4か所、5か所と話しができるサークルがあってほしい。その場所を通して、近所のことについて話し合える人間関係ができあがれば、地域とのつながりが深まる。地域とのつながりが深まれば、孤立感も減っていく。

「ボランティア」

- ◎ボランティアへの参加人数が少なく、協力してもらえない。ボランティアが集まらない現実がある。

「その他」

- ◎地域猫活動、去勢して耳に印のついた猫を地域で助け合う活動について、市ではそういう取り組みがないようだ。動物にも優しく、温かく見守れたら良い。
- ◎日高市は自然が豊かで景色が非常に良い。巾着田、日和田山へのハイキングなど、積極的にPRしてもらいたい。

第2回-意見交換の要約

討論テーマ

幅広い世代との交流や地域活動への参加を促進するために必要なこと

【グループ発表から】

Aグループ

「広報活動」、「きっかけづくり」、「課題共有」等に関する発表が行われ、「課題共有」では、市民は普段の生活が忙しく、地域の課題に目を向けられない点を挙げて、市の広報紙等で地域の課題について情報を発信し、市民の理解促進を図ることが、活動へのきっかけにもなり得ること、また課題を自治会等と共有し、市と市民が課題について共通認識を持つことも大切であるとまとめていました。

Bグループ

「わずらわしさ」、「PR」、「楽しさ」等に関する発表が行われ、「わずらわしさ」では、地域活動の中で仲間を見つけられれば楽しくなるが、楽しさの反面、わずらわしさもあるため、「負担にならないようにしないといけない」ということが重要で、また、このわずらわしさを取り去るのが、近所のつながりや声かけであるとまとめていました。

Cグループ

「環境をつくる」、「イベント・行事」、「情報発信」、「その他」等に関する発表が行われ、「その他」では、インセンティブの重要性を挙げて、参加を促すためには金銭やポイント制、記念品といった形でのインセンティブの仕組みがないと続かないのではないかと発表をまとめていました。

Dグループ

「PR」、「きっかけづくり」、「新旧住民の交流」等に関する発表が行われ、「きっかけづくり」では、実際に地域活動やボランティアに参加している人から、活動内容について話を聞くこと、お試しで活動を体験できる機会を設けることで活動に対する不安感を取り除くことができるとまとめていました。



【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「広報・PR活動」

- ◎大事なものはインセンティブ。金銭やポイントなどのシステムがないと続かないのではないかな。
- ◎サークル同士の交流を深める。例)子育てサークルと高齢者のサークルによる合同イベント
- ◎体験型のイベントなどをショッピングセンター等で行うことで、普段参加しないような人にも体験してもらう機会を作る。地域の商店の人たちとも交流ができるのではないかな。
- ◎ポスターコンクールを行う。誰もが参加しやすく、また情報発信が伝わりやすいように、いろいろな場所にポスターを貼っていく。
- ◎SNSを活用して、地域活動を知ってもらうことで、参加を促す。
- ◎市には、イベントに参加するとポイントがもらえ、商品券と交換できる健幸手帳という取組みがある。これを参考に、手帳を作り様々なサークルに参加することでポイントを貯めていく。それをきっかけにサークルに引き続き参加したいという気持ちになってもらう。
- ◎“あなたに来てもらいたい”というチラシや参加を募るチラシを無作為で配布する。
- ◎みんながSNSを利用しているため、活用すればつながる範囲が広がる。

「環境をつくる」

- ◎大人が好きでやっていることを子どもたちに伝えても、子どもは喜んでくれないが、子どもが喜んでやっていることは、大人も結構楽しんでできることから、世代間交流のきっかけとして、子どもに合わせた取組を行ってはどうか。
- ◎シニア世代は、ものを伝えようとする思いが強い。反対に若者から教えてもらうという取組も必要ではないかな。
- ◎引っ張っていく中心人物を育成すること。

「楽しさ」

- ◎地域活動というだけで少し難しそうだが、活動の中で楽しさや仲間を見つけられれば、楽しくなる。楽しいことなら参加できるのではないかな。
- ◎楽しめる活動が大事。

「わずらわしさ」

- ◎楽しさの反面、わずらわしさがあり、重荷になる。負担にならないようにしないといけない。

「新旧住民の交流」

- ◎新しい人が上手く地域の中に入っていくにはPRやきっかけが必要。
- ◎人が人を引っ張ってくる。

「日常・普段・毎日」

- ◎わずらわしさを取り去るのは、近所のつながりや気軽な声かけ。
- ◎知り合いがいると、誘いやすくなる。
- ◎普段のつながりが大事。

「課題共有」

- ◎市民は普段の生活が忙しく、地域の課題になかなか目を向けられない。市として地域の課題について広報等で発信することで、市民が課題を認識し、活動へのきっかけにもなる。また、課題を自治会の会長などとも共有し、市と市民が課題について共通認識を持つことが重要。

第3回-意見交換の要約

討論テーマ

新しく引っ越してきた人に、地域活動への参加を促すため、地域の良いところや誇れるところを紹介してください

【グループ発表から】

Aグループ

「自然」、「交通・移動」、「地域活動」等に関する発表が行われ、「地域活動」では、市内には活動団体や活動の場、イベントなど多種多様なものがあるため、各々が興味のあることを調べていけば、そこから地域につながるができるのではないかとまとめていました。

Bグループ

「交通」、「コミュニティ」、「豊かな自然」等に関する発表が行われ、「コミュニティ」では、隣近所の人温かく、適度な距離を保ちながらつきあいができ、また地域によっては神社掃除を行うなどの地域のつながりがあり、子どもから高齢者まで、暮らしやすい地域ではないかとまとめていました。

Cグループ

「自然」、「コミュニティ」、「イベント」、「生活の利便性」等に関する発表が行われ、「生活利便性」では、自然が多く住みやすい点を挙げて、都心まで50分で行くことができ、自然の中で暮らすことができる。整備されたまちでもあり、環境も良いとまとめていました。

【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「日高市の良いところ」

- ◎程良く田舎で程良く都。より田舎から来た人にとっては、店や交通の便が良い。都会から来た人にとっては、自然が豊か。そういうところが良いところ。
- ◎交通利便性が良く、買い物にも便利、長い歴史があり、豊かな自然もある。これらの部分から可能性を感じる。今でも十分だが、アイデア次第ではまだまだ可能性があり、非常に期待している。
- ◎市のPRは足りていないが、団体やイベント、遊び場などを調べてみると多種多様なものがあることがわかる。引っ越してきた人は自分の興味のあることを調べていけば、そこから地域とつながることができるのではないかと。

「イベント」

- ◎市民まつりや地域の夏まつりなどが開催されている。図書館でも様々なイベントが多く行われ、イベントに伴う市民への特典も多い。また巾着田の駐車場券が市民だと無料になるなど、特典が比較的多いので活用すれば便利である。
- ◎近所づきあいのイベントが多い。敬老会、高齢者が参加する行事や子ども会がある。運動会などでも地域で参加しているところもあり、イベントを通じた近所づきあいがとても多いのが良いところ。それがとても大事。

「コミュニティ」

- ◎隣近所の人々が温かく優しい。神社掃除などもやっており、地域の人たちのつながりがある。子どもから高齢者まで、暮らしやすい地域ではないか。

「治安」

- ◎良好な近所づきあいがあり、小中学生の通学路への交通安全対策が充実している。小学校の登下校の見守り、小中学校では「地域の方たちに積極的にあいさつしましょう」と言われており、それが実行されている。治安は良い。

「生活の利便性」

- ◎駅が4つある。車に関しても、日光街道、日高川越線があり基盤の目に近い道路交通環境がある。東京と程良い距離がある。
- ◎地域内の移動の点では、店によっては送迎バスがありそれが市内を循環していたり、車であっても、店の駐車場が広く、無料なので車を持っている人にとっては移動しやすい。また駐輪場も無料なので自転車でも移動がしやすい。
- ◎近くに病院や高齢者施設が多く、老後に心強い。近所にそのような病院や施設が多いことは良いこと。

「自然」

- ◎山や川があり、自然が豊かで、地域の一斉清掃によりきれいに保たれている。遠足の聖地と言われているので散策の場も非常に多い。そして観光地として、巾着田、高麗神社、日和田山。自然をそのまま残した観光地が多いので、そこが良さにつながっている。
- ◎環境も良く、住み良い。豊かな自然。高麗川の水がきれい、日和田山の標高はハイキングにちょうど良く、ロッククライミングの聖地にもなっている。また天災に強い豊かな自然があり、文化に関しては、高麗神社で1300年祭が行われている。
- ◎自然が多く、住みやすいまち。清流があって、川がきれい。自然の中で暮らせるというところが一番良い。

第4回-意見交換の要約

討論テーマ

地域住民で支え合いを進めるために必要なこと

【グループ発表から】

Aグループ

「場所」、「人」、「建前の目的」等に関する発表が行われ、「人」では、長期的に運営していくためには、1人当たりの負担を下げる必要があり、複数のリーダーを育成するとともに、イベントごとに運営担当者を変えるなど、分担して開催する仕組みについて提案がありました。

Bグループ

「場所・立地」、「動機づけ」、「活動」等に関する発表が行われ、「活動」では、中心となるイベントだけではなく、サテライトイベントのような小規模のサークルやイベントの開催に合わせてリーダーを配置し、気軽に参加できる取組について提案がありました。

また、リーダーの負担軽減を図るために、役割を設けて分担をするとともに、運営を継続するための動機づけも必要であるとまとめていました。

Cグループ

「目的」、「人的問題」、「場所」等に関する発表が行われ、「人的問題」では、中心となる人は必須であるとした上で、中心となる人に負担が集中しないためにも、イベントごとにリーダーを決め、また場所の管理をする人、鍵の開け閉めをする人という形で役割分担を行うことで、運営に関わる人を増やしていくことも重要であるという提案がありました。



【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「動機づけ」

- ◎リーダーの負担を減らすために、役割をみんなで分担すると、参加しなくなる人が出てしまうので動機づけが必要になる。
- ◎参加したい人がいても、参加するために送迎などの援助を必要とするケースがある。その場合、ドライバーの人が参加するための動機づけも必要ではないか。
- ◎みんなで集まってではなく、料理だったりラジオ体操、掃除だったり、近所で野菜を作っている人の野菜を配るといった目的にすることによって、参加のハードルを低くすることにもつながる。
- ◎割引チケットを配ること。「今日割引チケットが配布されるからおいでよ」と、ハードルを下げるのが目的のひとつとなっても良いのではないか。
- ◎男性でも興味を持つ内容を取り入れる。

「活動」

- ◎参加のためのハードルを下げる。
- ◎中心イベントの他にサテライトイベントをたくさん作る。活動場所に行くのが大変であれば周辺の小さなサークルにそれぞれのリーダーを置いて、井戸端会議のような参加のしやすさにする。
- ◎ハードルを下げ、動機づけをやったとしても、実は活動についてよく知られていないのではないか。イベントをやっていること、どこでどのような活動をしているのか知られていない。

「場所」

- ◎新しく何かを作るのではなく今あるもの、公民館などを活用する。
- ◎活動について、わかりやすくするために日時と場所を固定する。また平日に働いている人は、仕事などで参加できないため、日曜日に行くことも必要。
- ◎店など、既存のものを活用する。また、活動場所に行くまでのアクセス、託児所機能、そこでの過ごし方を保障する。

「日時周知（曜日 AM/PM）」

- ◎オンラインなども活用して、幅広い時間で活動できるようにする。
- ◎開催日時をより多くの住民に周知する。
- ◎日時を月の第〇週〇曜日〇時からと固定して開催する。

「人（役員）」

- ◎長期的な展開を考えると1人の負担を下げるためには、複数のリーダーを育成する。回ごとに運営者を変えて分担する。
- ◎単発のイベントを開催して、その場限りの中心となるリーダーが1人か2人がいればイベントが成立するので、そのようなハードルの下げ方もあるのではないのか。
- ◎心理的なハードルの低さが大切。活動するに当たり、必ずしも長期的に活動しなくても、単発なイベントを行い、常連だけではなく新しく引越してきた人などが参加しやすい、新しく引越してきた人のための行事を企画する。
- ◎中心となる人は絶対必要。中心となる人にもあまり負担にならないようにするために、イベントごとに中心となる人を決める。また、目的によってリーダーを決め、場所の管理をする人は、鍵の開け閉めだけなど、分担して役員の負担を軽くする。

第5回-意見交換の要約

討論テーマ

目指す地域福祉の姿 ～様々な参加者に合わせた地域イベントを考える～

◆Aグループ

参加者ターゲット：様々な世代、バックグラウンドを持つ人たち

【グループ発表から】

「広報・PR」、「人材育成」、「イベント」等に関する発表が行われ、「イベント」では心配ごとを解消できるイベントについて、子育てや介護中の人、引っ越してきたばかりの人、これから市に引っ越してくる予定の人などを対象に、様々なことを知ることができて心配ごとの解消につながるイベントを頻繁に開催するなどの提案がありました。

【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「動機づけ」

- ◎楽しいと思えること、必要だと思えることといった、参加のメリットがあることが重要。
- ◎親しい人に誘われる、誘い合わせによる参加で、気軽に参加することができる。

「運営」

- ◎既存の団体などと一緒に活動することで運営負担を減らす。
(例) 子供会、老人会・サークル、地元の会社 など

「広報・PR」

- ◎SNSや回覧板などといった媒体を活用して、幅広くPRを行う。
(例) 掲示板、学校だより、回覧板に情報を掲載

「人材育成」

- ◎中学生を対象としたリーダーシップ教育をイベントの中に盛り込む。
- ◎スマートフォンやSNSといったツールの使い方をイベントの中に盛り込む。

「イベント」

- ◎楽しく地域や人について知るといった企画で、マルシェや郷土料理など様々な人が関わり、楽しめる内容とする。
- ◎心配ごとを解消できるイベント。子育てや介護中、また引っ越してきたばかりの人や、これから引っ越してくる日高市のことを知らない人などを対象に、知りたいことを知ることができる、自分の心配ごとを解消できる会にしたい。

◆Bグループ

参加者ターゲット：半年以内に地域に引っ越してきた人

【グループ発表から】

「運営」、「集客」、「育成」、「イベント-伝える」等について発表が行われ、「イベント-伝える」では、新しい住民が地域に早く馴染めるように、茶話会や歩こう会、交流会という形の歓迎会を開き、ごみ捨てといった地域のルールなどを共有する場を設けるといった提案がありました。

【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「運営」

- ◎新しい会員に対するチューター制度や情報のやり取りをしやすくするためのマニュアルを作成し、助けなどが必要なときに、手助けしやすいようにする。
- ◎去年、引っ越してきたが、近所9軒中、3軒の人しか知らない。あいさつをしてもあいさつを返してくれる人があまりいない。個人情報の問題もあるが、どういう人が暮らしているといった情報が回覧板でまわれば、「あの人は誰か」ということも少なくなる。今の状況では、助け合いたくても助け合えない。情報を共有するためのマニュアルが作れると良い。

「育成」

- ◎中高生をボランティアとして招き、一緒に活動をする事で今後の育成につながっていく。

「広報」

- ◎回覧板に新しく引っ越してきた人の情報を載せる。

「イベント-伝える」

- ◎歩こう会、茶話会、交流会など新しい住民の歓迎会を開き、地域に早く馴染んでもらう交流の場とする。
(例) 地域の慣習の説明会やごみ出しルール、区・組・班の仕組みを教える など
- ◎ラジオ体操やフリーマーケットなどを開催することで、地域に住む近所の人との自然な交流が生まれ、馴染みやすくなるのではないか。
(例) 市内を歩こう会、季節の行事にまつわる手作りの会 など



◆Cグループ

参加者ターゲット：20～30 歳代の男女

【グループ発表から】

「集客」、「担い手の育成」等について発表が行われ、「担い手の育成」では、地域活動に繰り返し参加することが、最終的には定住につながるという意見の中で、地域に対する理解を深めてもらうために、地元の商工会や消防団の人たちの協力を得ながら、リーダーや後継者育成につなげ、さらにその後継者たちが年を重ねた時に、また次の担い手を育てていくという循環を取り入れた仕組みづくりなどについて提案がありました。

【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「集客」

- ◎立ち寄りやすい場所を作る。
- ◎既存のカフェなどを活用して、マルシェなどを開催する。
- ◎趣味やスキルアップのための学びの場を作る。
- ◎20～30 歳代の好みに合わせて、バーベキューやキャンプ講習会などを行う。

「人に優しいまち」

- ◎日高市は他市から引っ越してきた人に対しても優しく受け入れてくれる。
- ◎人とのつながりがあり、困った時に手を差し伸べてくれる。
- ◎何よりも、住みやすい。

「担い手の育成」

- ◎日高市のことをよく知っている、商工会や青年会などの人たちに協力してもらい、日高市に興味を持っている若者たちが定住したくなるようにPRを行う。
- ◎定住した若者たちを中心に、地域の消防団の人たちなどを交えて地域の担い手育成を行う。将来、その人たちが、若い人たちを集めて担い手の育成を行う。そういった循環ができればいい。



(3) 総括

全5回のワークショップを通して、本市における世代間交流や地域活動、支え合い活動がより活性化していくために必要な要素について参加者の声をもとに総括します。

【動機づけ】

○実現するための要点

1. 活動内容に関する情報の発信と参加しやすい環境の整備
2. 参加メリット、インセンティブの提示
3. 友人・知人との誘い合わせによる参加
4. 集える場所を行きたい場所にする

これまでに地域活動や支え合い活動への参加経験がない人たちに参加を促すとともに、参加を継続的なものにしていくためには、動機づけが必要な要素であり、重要な役割を持ちます。参加者に対して、活動内容に関する情報を発信することで、興味・関心を引き出すとともに、活動することで得られるメリットを示すことで、活動に対するインセンティブの役割を果たすことにもつながります。

また、同じ地域で暮らす友人・知人と誘い合って参加することも、身近なところで行える動機づけとなり、そして、継続的な参加を促していく中で、集える場所を行きたい場所に変化させていくことも重要です。

【活動場所・時間】

○実現するための要点

1. 身近に集える場所を作る
2. 既存の施設を活用する
3. 活動場所までの交通手段を確認する
4. 開催場所、日時を固定した活動を増やす

地域活動を行うに当たり、開催場所と開催時間は、参加を決める要素の一つになります。身近なところで集える場所を作ることも大切ですが、公民館や学校の空き教室などの既存の施設を活用するのも有効な手段となり得ます。併せて、活動場所までの交通手段や駐車場の有無なども確認し、情報を発信することで、参加を促進することにもつながります。

また、開催場所、日時を固定した活動を増やすことで、活動の日時を覚えやすく、定期的な参加、空いた時間での参加の増加が見込まれます。

【広報・PR】

○実現するための要点

1. インターネット、SNS、掲示板、回覧板、広報紙を活用する
2. 活動団体や地域活動を周知する
3. 体験型イベントの企画
4. 情報格差を少なくする

地域活動を活性化していくためには、どういった団体がどのような活動を、いつ、どこで行っているのかを幅広く伝える広報・PR活動が重要です。昨今、スマートフォンの普及により、SNSなどを活用した情報発信を行っている団体もありますが、幅広い年代に周知していくためには、掲示板や回覧板、広報紙などのツールを用いた情報発信も必要です。さらに周知では、情報へのアクセスを簡便にし、情報格差を少なくするための取組も必要となります。

また、活動団体や地域活動を周知するだけでなく、人が集まる場所で体験型イベントを開催するなど、直接目に触れて、参加できる機会を設けることも理解促進につながります。

【リーダーの発掘・育成】

○実現するための要点

1. 負担を分担できる体制づくり
2. 複数のリーダーを育成する
3. マニュアル、引継ぎ内容の明確化

地域活動を行う体制を構築する中で、中心的役割を担うリーダーは欠かせない存在です。しかし、1人のリーダーが担うことができる役割は限りがあると同時に、組織を長期にわたり団体を維持していくためには、リーダーに依存するのではなく、役割をメンバー内で分担するとともに、複数のリーダーを発掘・育成していく取組も必要です。

リーダーの発掘・育成に関してワークショップ内で、中高校生をボランティアとして募集し、ともに活動していく中で育成する方法について提案がありました。また、活動内容や引継ぎ内容を明確にしたうえでマニュアルを整備し、誰でも運営に携わることができる体制づくりを整備することも重要です。

まとめ

令和4年9月から令和5年1月まで計5回開催した地域福祉に関する市民ワークショップでは、世代間交流や地域活動、支え合い活動の活性化に向けて、現状の把握、課題の抽出、解決に向けた提案、具体的な取組についてKJ法とワールドカフェ方式を取り入れて意見交換を行い、最終的に目指す地域福祉の姿についてまとめました。

目指す地域福祉の姿

地域福祉の取組を活性化していくためには、参加者への動機づけが重要となります。どのようなインセンティブであれば、市民の参加を促進し、また負担なく継続していくことが可能か検討する必要があります。

また、SNSやインターネット、チラシやポスター、広報紙といった媒体やイベントの開催による体験会などを通して活動を広報・PRしていくことも大切な取組です。

組織を長期にわたり運営していくためには、人材の発掘と育成が欠かせません。そこでは、特定の人に負担がかからないよう、参加するメンバーで役割を分担する必要があり、活動マニュアル等の作成により役割の内容を明確にするとともに言語化し、共有することで、誰もが気負わずに参加できる体制を整備していくことも重要となります。

最後に

地域福祉を推進していくために必要な取組について、ワークショップでは多くの意見や提案をいただいただけでなく、様々な気づきもありました。市民が日頃から感じている課題は多様化しており、ニーズも様々です。より良い地域福祉を目指し、ワークショップでいただいた意見や提案を地域福祉計画の理念や目標、施策に反映し、より実効性のある計画の策定に努めていきます。

